

本日の講演会では三人の演者が登場します。メインスピーカーのカラスコ先生、レスポ  
ンダントのリチャード・ガードナー先生、そしてお二人の口を通してわれわれに語りかけ  
てくる、故荒木美智雄先生です。この三人は、1960年代から70年代にかけて、シカゴ大  
学で宗教学を学ばれた学問上の兄弟です。今日の講演会の中で、このお三方の関係はおい  
おい分かって来るかと思えますけれども、この三人の学ばれた学問は、1960年代以降、シ  
カゴ大学を中心に展開された解釈学的宗教学というもので、本日の講演のテーマ、「宗教  
学とヒューマニズム」の「宗教学」は、この「解釈学的宗教学」ということになります。

この解釈学的宗教学の一番の特徴は、解釈の対象と開かれたかたちで向き合い、対象と  
の相互関係を認め、それを解釈し理解することによって、自分自身の世界観や人間観が変  
わってしまうことを認識するという立ち位置です。この他者を理解するということで、自  
分が変わるというプロセスは、創造的解釈学とも呼ばれ、対象の価値から距離を置き、客  
観性を重視する社会学的アプローチとは一線を画します。

そして、もう一つのキーワード「新しいヒューマニズム」は、この解釈学的宗教学によ  
って可能となる、人間中心主義とは異なるヒューマニズムで、合理主義や物質主義、科学  
主義といった近代西洋がデフォルトとする枠組みにとらわれることなく、非西洋の文化や  
宗教を解釈学的に理解することで到達できる、より広く深い人間理解です。そして、この  
ような解釈学的営みは、研究者自身の主体性、身体性を起点とした具体的な学問的追究で  
あり、個々の研究者の立場が重要になってまいります。例えば、荒木先生は、ご自身のバ  
ックグラウンドの延長線上である日本の民衆宗教を研究テーマに据えられました。またガ  
ードナー先生も、主体性と身体性が重要になる社会運動や精神修養に深く関わっておられ  
ます。そして、本日も講演をいただくカラスコ先生も、ご自身のメキシコ系アメリカ人  
という主体性、身体性をよりどころとしつつ、独自の解釈学を展開されます。

ここでカラスコ先生のご略歴を簡単にご紹介させていただきます。カラスコ先生は、  
1944年、アメリカ合衆国メリーランド州ベインブリッジのお生まれで、その青少年期をワ  
シントンDC、メリーランド、そしてメキシコシティでお過ごしになりました。先生のお父  
さまは、メキシコ系アメリカ人として初めて、アメリカの主要大学の体育学部長とバスケ  
ットボールの監督を務められた方でした。そのため先生は、10代の多感な時期を人種問題  
で紛糾するアメリカの大学キャンパスで過ごされました。

大学の進学に当たっては、西メリーランド大学に進まれ、そこで英文学と社会学を学ばれた  
後、シカゴ大学神学大学院に入学され、ミルチャ・エリアーデ、チャールズ・ロング、ジョ  
ナサン・Z・スミス、ポール・ウィートリーといった著名な研究者のもとで、メソアメリカ  
の宗教を専門として宗教学を修められました。

博士号取得の後、コロラド大学で教鞭を取られますが、優秀な教員として表彰されたのに加  
えて、その初著である『ケツアルコアトルと帝国のアイロニー』で学長賞を授与されること  
となります。またコロラド大学に在籍中から、度々メキシコに出向され、アステカ帝国の寺  
院や祭場の発掘調査に参加されました。1993年、メキシコ系アメリカ人としては初めての、

終身在籍教員としてプリンストン大学に迎えられました。プリンストン大学在籍中には、オックスフォード・メソアメリカ百科事典の編集主幹を務められ、またノーベル文学賞受賞者であるアフリカ系アメリカ人作家のトニ・モリスンや、コロンビア人作家、ガブリエル・ガルシア=マルケスらと、南北アメリカにおける人種と宗教の関係について討議を重ねられました。2001年、ニール・ルーデンスタイン寄付講座教授として、ハーバード大学に迎えられ、ラテンアメリカ研究、人類学科、神学大学院の教員を兼任されることとなります。2003年にはアメリカ学術科学アカデミーのメンバーに選出され、さらにメキシコ文化の理解に貢献したとして、2004年には、メキシコ政府が外国人に与える最高の荣誉であるアステカの鷲勲章を受章。2011年には、メキシコ歴史アカデミーのメンバーに選ばれました。

このように、カラスコ先生は、ラテンアメリカ研究および宗教学のトップレベルの研究者としてアメリカの一流大学で教鞭を取ってこられたわけですが、常にご自身のメキシコ系アメリカ人としてのルーツを意識し、アメリカの征服や植民地主義の歴史、また合衆国におけるメキシコ人不法移民の問題などに取り組んでおられ、まさにご自身の主体性と身体性をベースに、新しいヒューマニズムの地平を広げようとお見受けいたします。

本日の講演では、先生がそのような解釈学的アプローチを培われたシカゴ大学時代にまでさかのぼって、特に荒木先生との関係を振り返りつつ、新しいヒューマニズムの歴史と意味についてご考察をいただきます。